

わかば NO.108 まちづくり通信

発行：市民ネットワークちば わかば

〒264-0033 千葉市若葉区都賀の台 4-5-15

Tel & Fax 043-284-2339

Mail: wakaba@chibanet.jp



コロナ禍を生きる ～あなたの場合・私の場合～



自宅療養になってしまったら・・・

8月頃、知人家族が感染して自宅療養したという話を聞いた。食料や生活用品は自宅にある物でなんとかかなったそうだ。保健所から健康観察を受け、市から酸素飽和度を計るパルスオキシメーターは貸与された。が、症状が悪化し保健所に連絡したところ「入院は酸素飽和度 80%台にならないとできない。医療受診はとにかくかかりつけ医に相談して」と言われたそうだ。知人が「かかりつけ医を持たない。また、かかりつけ医がコロナを診ない事例はどうするのか」とさらに訊いて、ようやく電話・オンライン受診可能な病院を紹介してもらい、治療を受けられ回復したとのことだった。

1人暮らしだった場合、体調の悪い患者本人が保健所とのやり取りや病院探しを自力でできるとは思えない。知人は「家族構成に関係なく自宅療養自体がもう無理ではないか」と言う。

「たまたま感染した本人がどうにか自分のことができてはいたこと、同居家族がワクチン接種済、換気を頻繁にしていたなど、家庭内感染が起こらない条件が偶然あったが、患者と直接接するしかない家庭では、家族皆感染せずに患者の療養を助けることは難しいだろう。少なくとも医療の提供やその連絡は行政で行うべきで、独居や高齢者世帯、子育て世帯などでの感染は、手厚い支援がないと孤立・自宅死につながるリスクが非常に高くなると思う」と話していた。(K)

知っていれば
慌てずに済みます

千葉市保健所感染症対策課発行
自宅療養のしおり



「生理の貧困」の背景にあるもの

コロナ禍で、にわかには表に出てきた「生理の貧困」という言葉。収入減で「経済的に生理用品が買えない」ということだけではなく、その背景にネグレクトや父子家庭、性教育の不足等があると言われている。裕福な家庭でも親の偏見や知識不足から身体への手当が遅れることもある。女性も男性も正しく詳しい生理の知識を学生時代に得た記憶は無く、生理によるハンディへの理解は進んでいない。

千葉市では、防災備蓄していた生理用品を公共施設等^{*}で無料配布し始めた。学校では保健室で配布している。背景にある課題を周囲の人々がキャッチするきっかけになってほしい。そしてやはり「性教育の充実が絶対必要」と声を大にして言いたい。(山田)

^{*} 千葉市中央図書館返却口、保健福祉センター健康課



【子育てひろば・みつわ台】

コロナ禍で親子の行き場は？

8月下旬、長女の通う幼稚園から、幼保運営課より通知ということで、「可能な範囲で登園を控えるよう要請します」と連絡がきた。対応はさまざまで、午前保育を行うところ、登園自粛をよびかけるところ、保護者の判断に委ね特に変更しないところ、など。長女はほぼ登園したが、自粛期間が終わるまで、毎日8～10人程、欠席していたようだ。

子育てリラックス館に行くと、検温、消毒、手洗い、そして人数制限をしていた。次の親子のため、1時間で退出しなければならない。スタッフはとても心苦しそうだ。

未就学児とその親が気軽に遊び、ゆったりと過ごせる場所は多いが、不本意ながら休止していたり、運営を短縮したりしているところもあった。

子どもは、安心して過ごせる環境の中で伸び伸びと遊び、解放される時間が必要だ。コロナ禍で、子どもは家にこもりがちになっていたのだろうか。どこで遊んでいたのだろうか。子ども同士の交流はあったのか。また、小さな子をもつ親の行き場もなかったのではないかと心配になった。(S)

千葉市の



子育て情報

—— 若葉区の子育てひろば ——

①みつわ台保育園内
☎ 255-7043(写真)

②子育てリラックス館
千城台 ☎ 236-6662
都賀駅前 ☎ 251-3606

今日も在宅ひとりぼっちの学生たち



昨年4月に大学に入学した我が子は、昨年度は一日も大学に通えず、講義はおろか実習や体育さえもオンラインになり、一日中ひとりでパソコンに向かっていました。心を病んだ人もいますし、下宿している人は帰省もできず「ひとりぼっちで寂しい」と訴えていたそうです。

小中高校や社会人が通学・通勤している中、なぜ大学生の世代だけがひきこもることを強要されているのでしょうか。近い将来社会に出る若者たちが心身共に健康な大人になっていけるよう、行政でも気かけ、メッセージを送ったりケアをしてほしいと思います。(M)



自宅でテレワークをし始めたら・・・

インターネット環境が整ってきた昨今、テレワークと呼ばれる自宅での仕事形態が増えています。

日中の住宅街は仕事とは無縁の生活音が聞こえます。例えば、廃品回収や宅配便のトラックの音、夕方には学校や幼稚園から帰る子どもや保護者たちの元気な声。職場で仕事をしてきた人たちにとって、これらの音は騒音と感じ、イライラしてしまうことがあるそうです。

コロナ禍で生活様式が変化した事への柔軟な対応が必要です。ポストに「テレワーク中です」というメッセージを貼っているお家を見かけましたが、こんな工夫も有効かもしれません。(福田)



それぞれの状況をまずは知り、思いやりを持った行動をしていきたいものです。
引き続き、市民ネットワークに声をお寄せ下さい。市の施策に反映するよう提言していきます。

市民ネットワークちばの会員になりませんか。広報紙やイベント情報などをお届けします。年会費1500円です。